

## 第 89 回 関西スペイン語教授法ワークショップ実施報告

日時：2015 年 6 月 7 日（日） 10 時 30 分～12 時 30 分

場所：関西学院大学 梅田キャンパス 1404 教室

### テーマ 1

日本の大学におけるスペイン語教育の制度的条件と環境(3) —スペイン語学科の事例

担当者：川口正通 言語：日本語

日本の大学におけるスペイン語教育の制度的条件と環境について、担当者が勤務する 2 つの大学の事例を扱った。特に、今回は主にスペイン語専攻課程の事例を取りあげ、各大学の歴史、スペイン語専攻課程の学生数および担当教員数、スペイン語の授業時間数、関連開講科目、留学制度等の情報を参加者と共有し、最後に担当者の私見ではあるが、両大学のスペイン語専門課程の共通点および相違点をいくつか指摘した。参加者からは、授業内容、担当教員に占めるネイティブの数、留学時の単位認定制度等について多くの質問・コメントが出た。

また、上記の内容から派生して、「『語学』は『専門分野』となりうるか」という話題があがった。担当者個人の意見としては、大学の外国語学部は語学学校とは異なるものであり、したがって語学を学ぶことを主目的とする場ではないと考えている。外国語学部の学生が語学を学ぶのは、学んだ語学を通じてその言語が使用される地域の文学、思想、歴史等を学ぶためであり、そしてそれを通して国際的・多面的なものを見方ができるようになるためであると理解している。しかしその一方で、参加者からは他の誰もかなわないようなレベルまで語学を高めるのであれば、語学は「専門分野」となっても良いのではないかという意見も出た。

さらに、1 つのクラスを複数の教員が担当する場合に、教員間での情報共有や連携が図られるべきか否かという点も話題になった。担当者個人は近年、大学の、主に第二外国語のスペイン語授業では週 2 回の授業が複数の教員によるリレー講義でおこなわれたり、ネイティブ教員と日本人教員がペアで授業を担当し、その間で連携がとられていたりといった事例が増えているような印象を持っているが、一方で複数の教員が独立して授業を展開することにメリットがあるという意見も存在するようである<sup>1</sup>。これは大学のカリキュラム、授業方針にかかわる大きな問題であり、語学教員の間だけで解決できる問題ではないが、一教員として問題意識を持っておくべき点ではないかと思われる。

---

<sup>1</sup> 当日の参加者からこの意見が出たわけではない。